

[今野]

お電話、代わりました。今野です

[野村]

おはようございます。野村と申します。先週、依頼した町長の・・・
その前に、暫定的な予定、興味じゃありませんでした？

[今野]

暫定的な予定

[野村]

開示の、予定。

[今野]

今日です。

[野村]

何時になってました。

[今野]

4時です。

[野村]

4時ですよ。その後で、町長に対して、同席の依頼を、先週お願い

したと思うんですけど、その結果はどうですかね？

[今野]

町長に一応伝えまして、町長は、そのことについては、ですね。副町長に委任してるっていう形なんで、

[野村]

ちょっと、それ、納得いかない。あなたにも、お伝えした通り・・・
ごめんなさい、まず、その話は、いつされました？

[今野]

先週ですね。

[野村]

先週の何曜日？

[今野]

木曜日か、金曜日だったかな。

[野村]

何で、私に連絡もらえないんですか？

[今野]

えっ？

[野村]

何で、それ分かったらね、私に連絡もらえないんですか？

[今野]

いや、今日、お話すれば、いいかなって思ったんですけど。

[野村]

今日の今日？

[今野]

ええ。

[野村]

事前に連絡すべきじゃないですか？今日の予定に対して、私は「町長の都合に合わせて、日にちが変更できますよ」って話をしてるわけなんでね。私の都合も、同席予定をしている方の都合を考えれば、速やかに、先週のうちにね、手配今は当然じゃないですか。

[今野]

いや、先週お聞きしたときには、あれじゃなかったですか、「その21じゃない日でもいいんで」っていう話をされてましたと思ったんですけど。

[野村]

21日じゃなくていいですよ。町長の長期の都合に合わせてということですよ。

[今野]

はい。

[野村]

あなたは、金曜日に、町長がいないのであれば、それは、21日の話が（不明）なる、っていう風に思わなかったんですか？

[今野]

21日・・・

[野村]

ちょっとお尋ねしますが、21日で、予定されてるんですか？されてないんですか？町の予定で。町長なりね、副町長と、それから、総務課長と予定作ってもらって、今日の予定、立ててもらったはずなんですよ。その予定というのはね彼ら2人はね、予定に入っていないわけですか。

[今野]

いや、入ってますよ

[野村]

そしたら、おかしいでしょ？先週のうちに、あなたは、「今日じゃなくてもいい」という判断をしたのであれば。今日の4時の予定は、あなたはどう扱われてるんですか？

[今野]

今日の4時は、野村さんに企画立案書ですか、IPネットの。それを情報開示しますよね。

[野村]

いや、だからそれはね、開示してもらうのに対して、これまでの経緯を考えれば、副町長では、不適格だということを私は、指摘したつもりなんですよ。

[今野]

それも含めて、町長にお話して、ただ「その件に関しては、町長が『副町長に一任してる』」っていう話ですよ。

[野村]

それは町長の言い分であって、私はそれは同意してませんよ。

[今野]

いや、そんなことはないと思いますよ。

[野村]

私が同意しました？

[今野]

いやいや、してないかもしれないけど、それを今日お話すればいい話じゃないですか？

[今野]

私は「町長が同席しないと、駄目です」と、「町長がいる席じゃなければ、副町長ではお話にならない」と。感情的に、感情的で人の言うことも聞かないし。人の言葉にかぶせてくるし。ものすごく失礼な不適切な言葉が、僕も今、まとめてるけど、到底、僕は、役場の、助役、副町長の責任ある人だと到底思えない。法律に対しての認識も、不足してる。情報公開とか法の理念とか、法の条文とか、そういったものにも、完全に不足している。そもそも今回、こういう事態が陥ってしまったのは、副町長が、実際、（不明）のプロセス、私が出した情報公開の中に関与すべき担当者じゃないにも関わらず、あなたに対して、余計なことをしたから、こうなったじゃないですか？しかも、それは、勘違いだったってことが、はっきり報告したわけですよ。

[今野]

それは、こちらもお詫びしますよね。

[野村]

お詫びなんかしてませんよ副町長は一言も。

[今野]

したと思います。

[野村]

一言ぐらい、したかもしれませんがね。全般的に

[今野]

いや、してると・・・

[野村]

一言以上、しました？誠意をもって。

[今野]

誠意をもって、言ったと思いますよ。

[野村]

一瞬だけね、その後すぐに・・・。ちょっとそこは止めましょう。
記録をたどれば、僕も昨日、聞いたたけどね。これで納得するというのが、到底、万人が、納得しない、あんなやり方されたら。自分、「一応、認めました」と、自分「ある程度、認めました」と。つまり、自分に非があるにも関わらず、その言い方は、自分が全て正しいかというような、あの態度で、つまり、人格攻撃に転じてるわけです、すぐに。僕の人格

[今野]

そんなことはないと思う

[野村]

聞きます？聞きましょう。

[今野]

聞いてもいいですけど。

[野村]

聞きましょう。いま流しますから。そう言うんだったら。

[野村]

(長い間のあと、音声記録を再生するが不鮮明)

[野村]

もしもし、聞こえています？

[今野]

聞こえていますけど、はっきりは・・・

[野村]

多分、聞こえてないと思います。その部分は、いま、ピンポイントで頭出しできないんで。今、別のところを聞いてて、それ以上に、イ

ンパクトがある、誰が聞いても分かるのは、「黒幕」。「黒幕だ」ということを、さんざん、持ち出して、「黒幕だ」「黒幕だ」と。あなたも同意してましたよね？「黒幕だ」「黒幕だ」と。ちょっとお待ちください。

[野村]

(音声を再生)

[野村]

あの、「黒幕」って言葉、覚えてないです？

[今野]

黒幕？

[野村]

何回も、しつこく言ってますよ、このときにも。

[今野]

黒幕ですか？

[野村]

あのね、これ、あなたもね、4月の9日、4月の9日に副町長室で、湯里団地の跡地利用、売却に関して、説明を受けたときに、黒幕って言葉を、副町長が、ことさら取り出して、不快感を示したことがあります

ましたよね？

[今野]

いや、私、それは存じ上げないんで。

[野村]

そのとき、同席してませんでした？

[今野]

してませんよ。

[野村]

4月9日。

[今野]

4月9日ですよ？

[野村]

副町長室で。

[今野]

いやいや、人違いだと思います。

[野村]

じゃあ、これは、記憶・・・そしたら、この9月の2日に同席されて
ましたよね？

[今野]

9月2日は、してますけど。

[野村]

されてましたよね。そのときに、黒幕、黒幕と言われたの、記憶ない
です？

[今野]

いや、ないですね。

[野村]

いや、これ、同意、求めていますよ、でもこの中で。「言ったよな？」
と。

[音声記録を再生]

(野村)そこはね、あなたも多少、慮ってね、僕は。

[音声記録を再生]

(副町長)黒幕がいると言ったよな？

[野村]

「黒幕がいると言ったよな？」これは渡辺さんの同意を求めているかもしれない。「黒幕がいると言ったよな？」と。

[今野]

その経緯は、私は分かんないんで。

[野村]

じゃあ、これで同意を求めてたは、多分、渡辺課長なんだろうと思いますけど。結局、これが分かりやすいと思って、いま出してるのは、そのときの記録を見れば、僕は、これ確かに不適切だったかもしれないなど、撤回します。すいませんでしたと。ただ、意図としては、これは、あなたが1人で決めたものじゃなくて、とうぜん組織だから、上司からの、圧力があったりだとか・・・

[今野]

圧力はないですけどね。

[野村]

僕が言った言葉を言ってるだけ。ここは否定するところじゃない。僕がどう言ったかを説明してるだけだから。そのとき言ったのは、「あなたを慮って使った言葉なんですよ」という説明をして、謝って、撤回してる。それを、それを、総務文教委員会でも、ことさら取り上げて、多分、貴方のところに今回の、文書、行ってません？今日、朝、送ったはず。昨日の夜、送ったんで。開示請求、新たな開示請求送っ

たんですけど。

[今野]

いや、届いてないですけど。

[野村]

ごめんなさいね、文書開示の請求を誰宛て、っていうのは、やらないもののようなんで、僕もただ、総務課長としかしてないですよ。あなたは、その担当じゃないんですか？情報公開の。

[今野]

それは、私、担当してないです。

[野村]

なんで。あなたは、あれになったんですか？工藤さんのとき。工藤さんに・・・

[今野]

それは、私、上司なんで。

[野村]

あ、そうか。あれはウェブサイトに関してだ。ウェブサイトに関して。うん、わかりました。そしたら、ちょっと戻りますけど、ちょっと、あなたが、あの今、言ったようなこの、この音声もちょっと、僕、ど

こかで、出そうと思ってるけど、これ、多分、あの恥ずかしいですよ、町として、あなたの言ってる、あなたの言ってる内容とか、知識とか、副町長の猫へのとかね、言葉遣いだとか、うん。

[野村]

僕は、相当、恥ずかしいものだと思う。とうてい、僕が、いや、もう、副町長じゃね、もうなんだ、話がかみ合わないからね、勘弁してくれと言ってるのが、妥当性があると、認めてもらえる、と思ってます。もしもし。

[今野]

はい？

[野村]

なんか変な音聞こえませんか？

[今野]

聞こえません。

[野村]

ちょっと待って。ごめん、ちょっと待って。もしもし。

[今野]

はい、。

[野村]

ごめんなさいね。何だっけ、ちょっと、他の着信があったからね。これ、あなたが、どう理解したかは、ちょっと置いておいて、僕が、先週お願いしたのは、「町長に入ってもらわないと困る」と。「副町長では、あんな状態では、お話にならない」と、「まともな、紳士的な話にならない」と。僕は、どっちかというところ、お願い、あれじゃ、ちょっと、どうにもなりませんよ、と助け舟を求めるような言い方をしたと思いますよ。それが、町長が、「副町長に任せてある」ということであれば、そこで僕が、「副町長じゃ無理だから」と、言ってるわけだから、日にちを改める。「どうしましょうか？」と僕に聞くのは、自然の流れじゃないんですか

[今野]

そうは思いませんけどね。「今日、お伝えすればいいかな」って思ってたんで。

[野村]

それは、僕、金曜日、先週の段階で、無理な理由は、ちゃんとお伝えしてませんか？これね、ちょっと、あなた、おかしいよ。例えば、いわば、イジメみたいなもんだよ。

[今野]

いや、いや、いや。

[野村]

ちょっと待って、ちょっと待って、僕が説明するから。あのね、僕のね、実際声のトーンだとか、言葉の力とかは、さておき。町の有力者と、一町民との力関係からすれば、僕の方が弱者ですよ。弱者ですよ。あなたの方が、金力、権力、町に対しての影響力を持ちうるわけですよ。その権力関係の絶対的な違いに対して、僕が、「お願いします」と、お願いしてるわけですよ・副町長ではね副町長のあの態度ではね、お話にならないと言わばね僕はいじめね。

[野村]

つまり町の有力者から、あんな、到底、誠意を欠いた、対応されて、イジメられる状態に耐えられないから、町長が入って来ないと困るってことをね、あなたにね、発信してるわけですよ。それをあなたは、町長なんか町長に行って町長が、「副町長にまかせてる」と、つまり、「イジメっ子に任せてるから、俺は行かない」と言って、それを、あなたは、イジメっ子の前に、僕を向かわせようとするんですか？

[今野]

イジメているつもりはないと思いますけど。

[野村]

いや、それは、「つもり」は、ないでしょう

[今野]

僕が言ってる言葉というのは、あなたは、もう全く、少しも理解しようとしなくても、例えとしては、的外れじゃないよ。つまり、権力がどうなのか、3人がかりで、3人がかりで、人格攻撃をされたら、僕がどう感じるか。3人がかりで、3人がかり

[今野]

野村さんこそ、攻撃してないですか？

[野村]

僕はね、紳士的な一定のレベルを、保ってますよ。

[今野]

いや、そんな風には聞こえませんが

[今野]

人それぞれです。

[今野]

お互い様でしょ？

[野村]

それは、客観的な第三者が見ないと、分からないことなんですよ。

[今野]

いやいやいや、

[野村]

ちょっと待って、ちょっと待って、これが、まさに今言ってる通りですよ。当事者同士では、どうにもならないことってあるんですよ。そういう話を、私、しましたよね？先週の段階で。当事者同士では、どうしても、自分の主観に流されるから、当事者同士で解決できないことってあるんですよ。

[今野]

ええ。

[野村]

どっちか片方が、誠意を失ったりだとか、相手に対して尊重しなかったりだとか、自分の感情ばかり前面に出してしまったら、そこで終わりなんです。当事者同士の話し合いってのは、できないんですよ。理解できます？僕の言ってること。分かります。分かりますよね。そこで第三者の、第三者が、間に立つ必要性が出るんですよ。僕は、そのことを言ってるんですよ。私とあなたの話だって、そうですよ。平行線ですよ。平行線のところがありますよ。

[今野]

だから、私、あのとき言いましたよね。「私は判断できないで、町長にお話して、町長の判断を仰ぐ」って、いう話しましたよね？

[野村]

それは、僕がお願いしたことですよ、あなたに対して。あなたが、自分で決めつけようとするから、あなたの、あなたの権限じゃなくて、あなた町長にね、打診することがあなたの仕事だということをね、僕が明確に依頼したんですよ。

[今野]

ええ。

[野村]

あなたの判断じゃないよ。

[今野]

ええ。ただ、それ今日、お伝えして、全然、問題ありますか？

[野村]

問題があるでしょ。何度も言ってる通り、僕は、そんなことに同意してませんよ。

[今野]

じゃ、お伝えすれば、いいじゃないですか？

[野村]

誰に？

[今野]

野村さん。町長は、そういうお考えだって

[野村]

いや、なんで今日になるんですか？当日に。これね、ちょっと、あなた方、やっぱおかしいよ。それ自体が、相手の都合よりも、自分たちの勝手な決めつけで、「今日言えばいいや」と。何の根拠で、今日の今日なんですか？僕だって、準備があるでしょう？僕にだって準備があるでしょ？今日やるんだったら、「何の準備しようか」って、準備があるじゃないですか？「そこに町長が来るんだったら、どうしよう」「来ないんだったら、どうしよう」という準備があるんじゃないですか？

[今野]

そうですか？

[野村]

相手の準備を慮るのって、当たり前のことじゃないんですか？

[今野]

(鼻で笑って) それができているんだったら、大変申し訳ありません。

[野村]

そこは、鼻で笑って答えるところですか？僕が言ってることは。

[今野]

笑ってません。

[今野]

鼻で笑ってますよ。

[今野]

(笑いながら) 笑ってません。

[野村]

今だってそうでしょう。

[今野]

いやいや、笑ってませんって。

[野村]

人格っていうのは、相手に、自分の、自分の言葉が、相手に与える印象ってのは、自覚がない場合があるんですよ。

[今野]

いや、それはお互い様じゃない・・・

[今野]

そうでしょう。

[野村]

だから、お互いに、平行線のところがあるから、第三者の、立ち合いを、僕は求めているんですよ。ちょっと、もう止めましょう。あなた、いつも平行線だ。いつも平行線だよ、副町長も。でね、あなたが、あんたそれを、僕が、事前に、「こんな会合じゃ、到底まともな、話にならないから、勘弁してくれ」と言って、町長に助けを求めているにも関わらず、それを直前まで伝えようとせずに、当日、言えればいいんだと。「今日は、町長来れませんでした」と、多分言うつもりだったんでしょ。その場で、多分。そんなやり方でいいんですか？いじめっ子に対して、また、イジメっ子の例、もう1回挙げますけどね。それぐらい権力の差があるから。「イジメっ子が謝る」というから、「校長先生も一緒にいますよ」と。行ってみたら、先生いなくてね、いじめっ子が3人が並んで、また同じようなことを、やられる。ね。

[今野]

イジメてるつもりはないと思います。

[野村]

それは、お互い様の話だから、止めましょう、その話は。その自分の主観とか、自分の印象とか、止めましょう、僕も止めますから、一切。

[今野]

やってるとは思いますけどね。野村さんも、してると思いますけどね。

[野村]

今から、いっさい止めましょう、と。話の平行線を打破するために、
今から、この瞬間から、いっさい、主観、自分の印象に基づく発言は、
止めましょう。その上で、論理的な話に限定しましょうよ。

[今野]

どうぞ。

[野村]

僕、言ってる通り、相手、この相手、「町長、つまり、第三者がいな
ければ、お話にならないから、その人を、その人がいる時間帯で再調
整をしてください」という依頼を、私はしました。

[今野]

はい。

[野村]

合ってます？

[今野]

はい。

[野村]

再調整を依頼しましたよね？「この日じゃなくて構わない」と。町長、

副町長と、総務課長だけじゃなくて、副町長まで、調整してもらう必要があるんで、「21日の、火曜日じゃなくて構わない」と。ただ、「町長が、いるときにしてください」という依頼をしましたよね？なんで、それに町長が駄目だと言ったら、「やっぱり町長は駄目だそうです。どうしましょうか？」という打診をね、事前に僕にしないんですか？

[今野]

打診を、今日は今日でやるっていう話だったんじゃないですか？

[野村]

違います。

[今野]

いや、僕はそう思ってましたよ。そう取りましたけど。

[野村]

じゃ、記録を、今度、会ったときに、あなたに聞かせますよ。「僕は、こう言ったと思う」じゃなくて、聞かせますよ。そのときに誰が見ても、日にちの調整を、前提とした話になってたらね、あなたも、そのときに・・・まあ、それを聞いてから回答すればいい、そのときに求めますから。今は要らない。そこで改めて言いますが、僕が言ったのは、間違いなく、日にちの調整をお願いした、日にちの調整を。自分でもはっきりと記憶あるのは、「町長にまでも調整を頼まないとい

けないから。当然、変更になっても構いません」という言葉は、かなり、そのときの言葉に近い、そういう言葉を、僕は発した。今、あなたが「記憶ない」と言うから、改めて言いますが。町長がいる場じゃなければね、無理です。あんな、あんな対応を、また、されたら、僕は耐えられないよ。だから、再調整をお願いします。あなたができないのであれば。できないのであれば、渡辺さんに、代わってください。もうちょっと多分、あなた、ただウェブサイトの担当だったから、この場に来てしまったに過ぎないんで。これ多分、渡辺さんに話をし、速やかに、当然今日予定してる人に話を回すんですよ。とうぜん速やかに。困るんでしょ？僕の印象は悪くなるし、「なんで。今日の今日、駄目だって言いやがって」となるでしょう？そういう言い方に。

[今野]

いや、副町長にも話してますし、町長、町長にお会いしたいっていう話をしました。

[野村]

違います。僕が言ってるのは、今日の今日になって、「野村さんと2時から打ち合わせだったけど、キャンセルになりました」と、「延期になりました」と言ったら、「なんだよ」と、「今日の今日になってかよ・・・」ってなるじゃないですか？

[今野]

今日の今日になってですか？

[野村]

今日の今日になってね、予定っていうのは、できるだけ早く、変更があれば、伝えるもんなんですよ。普通感覚では。それが駄目になったら、できるだけ早く出すもんなんですよ、予定の変更。相手にも都合予定があるから。それをあなたが自分で抱えて、今日の今日、当日のその瞬間まで、僕に言わないでいい、とってたこと。今日、僕が、問い詰めて、あなたから、「実は出席できない」と。当然、僕は、事前に伝えた通りに、「じゃ、今日はなしですね」と、「町長がいる日じゃなければ無理」だということを、今、お願いして、あなたは事前に伝えなかったから、今日も今日になっちゃうわけですよ。副町長と、総務課長に対して、総務課長と、小林さんに対して。3人に対して、3人にだって、予定があったのにね、今日の予定があるからという風に、そこ空けてるわけですよ。印象悪いでしょう？当然、今日の今日だったら。

[今野]

今日は今日でやるっていう話じゃ・・・

[野村]

やりません。

[今野]

先週の話・・・

[野村]

やりません。何度も言ってる通り、「町長が、来れなかったら、日にちを変えます」という風に、僕は伝えてます、明確に。これ多分ちゃんと伝えてないよ、また。このこともね。ちゃんと伝えてない。これね、あなたが自分は聞いてないって言うのは止めます。

[今野]

(不明)

[野村]

ちょっと待ってくれ。ここであなたが、自分はそう思ったと言うのは止めます。記録を持って、僕がどういうふうに伝えたかを聞いた上で、あなたの判断が正しかったのかどうなのかについてだけは、その音声の後で判断しましょう。そこで、あなたの弁明を、今、求めませんね。

[野村]

今ここで僕は、自分にとって、同じことを繰り返すの、町長のいる場所でなければ、あんなにやり方の、あんなやり方の、ミーティングの中に、僕、入りたくないよ。あんな、3人か4人がかりで、人格攻撃をされるような、

[今野]

いや、してないと

[野村]

それは、さっき言ったでしょ？やめましょうと。印象は。その相手の言葉に対しての印象は。

[今野]

いや、そうやって言ってくるじゃないですか？止めましょう、止めましょうって言って。

[野村]

これ前提として、この話しにする前に、「証拠のないこと、自分がどう感じたとか、そういうのは止めましょう」と言って、言っていましたよね。

[今野]

いや、言ってますけど、戻ってますよね？

[野村]

何に戻ってます。

[今野]

いや、「そういうことは止めましょう」って言いつつ、また戻ってるじゃないですか？

[野村]

あなた言ってるのは、人格攻撃という言葉が、多分、引っかかったんだらうと思いますよ。僕が人格攻撃という印象を持った、自分たちは、そのつもりはない。でも、こいつが人格攻撃費と言ってる、と。だから、やっぱり、印象を言ってるじゃないか、ということ、多分、あなた言ってるんだらうと思いますよ。そうですね。

[今野]

ええ。

[野村]

そうですね？もうちょっと、明確に、言葉、言ってもらわないと、伝わらないよ。

[今野]

野村さんも、はっきり言ってもらわないと、伝わらないと思いますよ。

[野村]

それは、失礼じゃないですか？あなた、いつも、そういうネチネチとした、失礼なこと言ってるよ。

[今野]

失礼ですか？

[野村]

僕がどこで、そんな、明確じゃない言い方をしました？

[今野]

「止めましょう」「止めましょう」って、言っても、結局、戻るじゃないですか？

[野村]

それは明確じゃなくて、「明確じゃない」って言葉じゃないと思いますよ。「明確じゃない」という定義の言葉じゃなくて、「言ってることと、やってることが翻ってる」って言葉だったら、まだ近いかもしれない。「明確じゃない」って言葉は一致しませんよ。

[今野]

ごめんなさい、分かんなくなってきた。

[野村]

ね、ちょっとねもう1回戻りますけどね。何度も何度も言いますよ。僕は、先週のうち、うちにね、あんな、「あんな」っていうのがね、ちょっと僕の主観印象を含んでるかもしれませんがね。僕は、到底、ここで主観を含めないで説明するのは、とても困難ですよ。とても困難。ただ、第三者が入らなければ、困難な状態っていうのは、あるんですよ。人であれ、国であれ、紛争状態になったら、当事者同士で解決できないことって、容易に発生するんですよ。そこで第三者の仲介の必要があって、僕は、それを求めているんですよ。その人がいなければ

ば、僕は、その会合に参加しないってのは、当たり前のことなんですよ。それを僕は先週、頼んだんですよ、あなたにね。あなたは自覚ないみたいだけどね。その仲介者・・・

[今野]

「別日でいい」って言ったじゃないですか。「町長、いきなり21日参加できないかもしれない」って言ったけど、それも含めて「調整お願いします」って、あなた言ったんですよ。

[野村]

別の日に調整するんですよ、もちろん。なんで仲介人がいないのに、当事者だけの、紛争の当事者だけの話が、成功するんですか？何度も言ってる通り。「当事者同士じゃお話にならない」ってこと言ってるんですよ。平行線だと、今。あなたと私がある状態にある通りに、当事者同士では、当事者同士では、お話にならない、いつまでたっても、「議論がかみ合わないから、第三者が必要だ」と、ずっと、それを。「町長に合わせます」と、「日にちの調整お願いします」と。当然、第三者を含めた、話じゃなければ、話にならないんですよ。なんで、あなたは、そこで、第三者を外して、すり合わせが不可能な当事者だけの、紛争の当事者だけの話で進めるんですか？

[今野]

あのですね、いいです？

[野村]

どうぞ。

[今野]

先週の話だったときで、21日でも・・・

[野村]

そこについては、一番最初に「記録を、録ってあるから、それを聞いてからにしましょう」って話し、僕。しましたよね？「あの時、どう言った？」だとか、「記憶でやるのは止めましょう」って話を、僕、しましたよね？

[今野]

ええ。

[野村]

やめましょうそれは。今、改めて僕はお願いしてるんです。改めて聞いてるんですよ。当事者同士では、無理だから、第三者の仲介を、頼んだってことは、あんたに自覚があるにも関わらず、当事者が、その第三者、仲介である町長が来れないのに何なんで、当事者だけで話を進めることに、理があるんですか？

[今野]

(無言)

[野村]

聞いてるんですよ僕は。

[今野]

聞いてますよ。

[野村]

僕は聞いてるんですよ。あなたが答える番なんですよ。あなたが、なぜ、そういう判断したのかの理由を聞いてるんですよ。

[今野]

今日、面会できると思ったんで、その際にお伝えすれば・・・

[野村]

まだ言ってるんですか。僕の質問は、当事者同士では話しにならないから、第三者の仲介を選んで依頼したにも関わらず、「第三者が出れない」と言ってるのに、なんで当事者だけの、打ち合わせを、そのまま進めようとするんですか？と、その理由を聞いてるんです。

[今野]

ですから、私は、今日はそのままやって、別日で調整すればいいのになって思って、それで町長にもそういう話したんです。

[野村]

答えになってませんよ、それは。僕が聞いているのは、「当事者同士では話にならない」という前提を、あげてるでしょう？なんでね、当事者同士で話にならない前提なのに、当事者同士の話を、あなた進めるんですか？

[今野]

今日はあれじゃないですか。だって、企画立案書を開示するっていうので、（不明）受けたんですよね？

[野村]

前回だってそうでしょう。公開に対して、公開するだけの話なのに、あんだけ、すり合わせができないんですよ。質問に対してまともな、応答ができないんですよ。今回それは当然それに対して、「この文書はどういう意味ですか？」って離しが出てくるんですよ。ただ文書を一方的に見せて終わりなんてならないんですよ。そんなこと分かるでしょ？前回のことで。

[今野]

（無言）

[野村]

聞いているんですよ。何でそんな当事者だけの話しをあなたが決めたのかの理由を。あなた答えられないよ。時間の無駄だよ、僕は。これね、あなたはね、当然、僕は窓口に入ったから、とうぜん僕の言葉をちゃ

んと正確に伝える理由、義務がある。お願いします。当然、今日はキャンセルですよ。僕は町長がいなければ、到底。あんな、ここはちょっと僕の主観に戻しますけどね、僕の印象。あんなやり方で、お互いの意見が、全然、かみ合わない、お互いに。あんのありえないよ。

[今野]

じゃあ、今日はキャンセルでいいですね。

[野村]

それはもう、前回の段階で伝えてる。これについては、どういう話をしてたかっていうのは、僕は当然小林さんと副所長には伝えますよ。その上で、あなたは、僕は、当然今日も気になって寝させる施策のようなね、印象を与えることに防止するためにね。

[野村]

でも、あなたは、自分の立場として、当然、僕も窓口に立ってるわけだから、その調整をしてください。僕が求めているのは、町長に対して、「町長が居る場じゃないと駄目」だということを、町長に再度、伝えてください。それに対しての回答を求めます。あなたは、あなたが、僕は残念ながら、まともに僕の言ってる言葉を伝えてくれているとは、少し思えない。すごく疑問を持ってる。だから、別に、渡辺さんには、別途、依頼します。でも、あなたはあなたで進めてください。お願いします。

以上